

寺家谷 勇希 (JIKEYA Yuki)

研究員

- 1993 マレーシア国スランゴール州 生まれ
- 2017 茨城大学 農学部 地域環境科学科 卒業
- 2019 茨城大学 農学研究科 農学専攻
地域共生コース 修了
- 2019 農研機構 農村工学研究部門
施設工学研究領域 土構造物ユニット



著者@ラオスのサトウキビ畑

研究者の横顔

<自己紹介>

生まれはマレーシア国ですが、生後6か月で来日し、静岡で育ちました。大学の研究の調査対象地域がタイやラオス、インドネシアで、心なしか東南アジアに縁があり、熱帯地域で過ごしているときの方が体調が優れるよう気がします。美味しいと感じる味覚の幅が広く（バカ舌?）、おそらくどの国の料理でも好きになれると思います。色んな国の料理を食べて、検証したいです。

<研究者を志すまで>

農学部を専攻した理由は、当時何に興味があるのかわからず、幅広い分野を学べる農学部なら、何かやりたいことが見つかるだろうと思ったからです。私が大学に入学当初、農業化学を学べる学科、動植物を学べる学科、農業土木を学べる学科に分かれていたのですが、私はあまりよくわからずに、性に合わなければ転科しようという気持ちで、農業土木の学科を選択しました。幸いにも、授業と学科の雰囲気は性に合っていて、卒業後の進路は農業土木を専門にした仕事に就こうという気持ちに自然となりました。

研究で初めてタイを訪れたとき、目に入るもの全てが目新しく、自分が求めていたものはこういう世界だと確信し、自分が何に興味があるかに対するもやもやした気持ちが晴れました。「農業土木」と「目新しさ」の条件を満たす仕事は「研究者」なのではないかと思い、研究者を志すようになりました。

<Appendix>

農学部を卒業したからには、人並み以上に作物が育てられるようになりたいという思いと、今まで授業等で習ったことが机上の空論で終わってしまうのではないかという考えもあって、趣味半分、週末はやや広めの畑で家庭菜園を行っております。土壌改良のために、緑肥ソルガムを植え、すき込もうとしたのですが、トラクターですき込むのとは違い、刈込鋏を使っての細断作業と鍬を使ってのすき込む作業が想像以上に重労働で、半量で断念しました。実際にやる前からわかることもあります、やってみないとわからないことの方が多いと思います。Trial and Errorの精神で、研究も頑張っていきたいです。



緑肥ソルガムのすき込み風景